



山本和英 Kazuhide Yamamoto  
宇宙航空研究開発機構 研究開発本部 開発員  
(2007年3月 理学研究科修了)

いろんな価値観に触れてみよう

—JAXAに就職したきっかけは？

私が在籍していた理学研究科物理科学専攻の研究室では、JAXAとも共同研究を行っています。学生時代から宇宙関係の仕事に興味がありました。一般企業への就職も考えましたが、宇宙関連の分野を学んだのも何かの縁かと思ひ、研究室ともなじみ深かったJAXAへの就職を決めました。今は1m角サイズの小型衛星の開発を行っています。私は衛星の電源機器の開発を担当しています。

—学生時代の経験で、今、役立っていることは？

学生時代には、他学部の人や外国人講師の方など、異なった分野・文化の人との交流を通して、さまざまな価値観に触れる機会が多かったですね。3年生の時には、会話



筑波宇宙センター内の展示館

パートナーにも参加して、外国人留学生と仲良くなり、いろんな考えを持つ人と接することができました。そこで、自分の考え方や常識が全てではないのだと実感しました。

いろいろな人と意見を交換しながら、物事をより良い方向へ進めるといことは、仕事でも生きています。今の部署では上司にも気兼ねなく相談できるし、同僚のフォローもあるので、みんなで協力して仕事に取り組んでいます。何年かたって後輩ができたときも、自由な雰囲気職場で、チームワークのいい集団でありたいと思いますね。

—学生時代と変わったことはありますか？

自分の仕事に対する責任ですね。学生時代は、先生や大人が責任を取ってくれるモラトリアムの期間。でも社会人になったら、自分の仕事には自分で責任を取らないといけません。学生時代のように漫然と作業するのではなく、

予測値など事前に当たりをつけてから試験をし、問題が起こった際には事実をしっかりと確認するよう心掛けています。一度打ち上げた衛星に不具合が生じても、修理ができないので、事前にできる限りの試験確認を行っています。

—衛星の打ち上げの瞬間は、どう感じましたか？

実は、自分が携った衛星の打ち上げを現地の種子島で見たのですが、それほど実感が湧きませんでした。曇っていたので打ち上げ後すぐ視界から消えてしまい、感動する間もありませんでした。むしろ、軌道上の衛星からデータが送られてきた時が、感慨深かったですね。自分たちの手で造った衛星が、宇宙で本当に動いていると実感できて、うれしかったです。衛星と通信できる時間帯は限られており、そのころは仕事が深夜の作業になることも度々で、疲労もありましたが、非常に充実感もありました。



宇宙服のレプリカも見られる

—後輩へのメッセージを！

やりたいと思ったことにはチャレンジして、出会いを広げてみるといいと思います。大学の中にはいろんな価値観を持った人と触れ合う機会がたくさんありますし、交流を重ねるうちに、どんどん自分の知らないことが発見できると思います。いろんなことに挑戦して、悔いの残らない大学生活を送ってください。



社会の第線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身につけておくべきことはまた「メンターズ」のインタビュー。私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

# 羅針盤 OBG&OG 紹介

compass

—2010年度「新潮」新人賞を受賞されましたが、その感想を聞かせてください

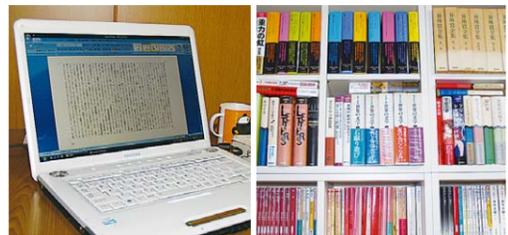
書き終わった時、「これは、もしかしたらいけるかもしれない」という予感がありました。とはいえ、出版社から最終候補に残ったと電話があった時には驚きました。受賞できて本当に良かったです。

—小説を書こうと思ったきっかけは？

もともと小説を読むのは好きでしたが、「書こう」とか「書ける」とは思っていませんでした。結婚を機に、主人が好きなバルガス＝リヨサなどの海外文学に触れるようになりました。リアリズムと幻想の混じり合った文学で、想像以上に面白く、刺激を受けました。次第に、「自分も書きたい」「自分にも書けるのではないか」という気持ち生まれ、主人の後押しもあって、3年前から小説を書き始めました。

—どのように執筆されているのですか？

1文を書いたら、次の文がずらずと引き出されて、考えるより先に手が勝手に動いていく感じです。もう何も思いつかないところまで書いたら、今度はそれを見直して、「さて何を書きたいんだろう」と考えるんです。そして、ある程度書きためた断片を削ったり書き足したりしながら、小説の形を作っていきます。ちょっとずつ書きためた断片を1つにまとめるのは、非常に労力が要ります。今はとにかく、書くことが楽しいですね。



執筆に使うパソコンと書棚

執筆で大切なのは、できるだけ毎日書くこと、読むことです。今は仕事と家事をしながらですが、毎日コツコツ書いています。執筆にのめり込むと、つい周りへの配慮を忘れてがちですが、執筆を支えてくれる夫や家族への心配りを忘れず、ちゃんと声に出して「ありがとう」と言うことを心掛けています。

—今後の目標は？

当面の目標は、単行本を出すことです。この1年以内には実現させたいですね。将来的には、作家として食べていくのが目標です。私は、小説で何かのメッセージを伝えるというよりは、芸術として価値があり、かつ読んで面白い作品

を書いていきたいと思っています。

—広大生へメッセージを

大学時代は、人生の中でも貴重な時間です。エネルギーを要することは、時間が十分にある学生時代にしておくべきだと思います。私の場合、学生時代に「どうしてもっと本を読んでおかなかったのか」と後悔しています。



現在、就職難と言われていますが、やりたいと思ったことには、恐れず挑戦してほしいですね。社会に出て働くことは、自分の市場価値を知ることでもあります。実際は試練ばかりかもしれませんが、自分を高める貴重な経験でもあります。それは正規採用でも非正規採用でも同じです。学生時代にいろんなアルバイトを体験して、経験の幅を広げておくのもいいと思います。



小山田浩子 Hiroko Oyamada  
作家・主婦 作品「工場」で2010年度新潮新人賞を受賞  
(2006年3月 文学部卒業)  
趣味の世界から見つけた、自分の道!

## 取材を終えて



落ち着いた物腰で、終始和やかにインタビューに応じてくださった山本さん。「やりたいと思ったことにチャレンジしてみる」というメッセージをいただきました。自分もあと2年間の学生生活でやりたいことにチャレンジしていこうと思いました。

取材・記事/法学部3年 武林 賢明



仕事・家事・執筆の3つを両立させている小山田さん。私も見習わなければと思いました。何より支えになっているのはご主人ということで、何だか幸せのおこぼれをもらった気分です。小山田さんに会って、より一層文学に興味湧き、これからたくさん本を読んでもみようという気持ちになりました。小山田さんの次回作が楽しみです!

取材・記事/教育学部2年 福永 藍